浄土寺だより

派舎
寺精
願本
本根
宗宗
真真
土見
浄石

ともしび

平成29年11月号　*Vol58*　発行日　１７１１１２
〒６９９－４６２１
島根県邑智郡美郷町粕渕３５４
浄土寺 門信徒会
TEL　0855―75―0064　FAX　0855―75―0264

月々のことば

十一月(二十　二十一日)　報恩講
仏恩深し
ただ謝するのみ

十二月(十六日)　仏婦報恩講(歳末法座)
逆境を生き抜く人あり
順境に酔わぬ人あり

一月(十五　十六日)　御正忌法要
新年のご挨拶
あけまして南無阿弥陀仏

二月(十六日)　初法座
老病死は避けられないが
人生の妙薬ともなる

三月(二十一日)　春彼岸法座
仏法聴聞のご縁をいただいた
亡き人からの贈りもの

四月(二十　二十一日)永代経法要
反対意見から学ぶ人に
頭が下がる

これからの主な行事

平成二十九年度
十二月　仏婦報恩講（十六日）
　　歳末法座と兼ねる
　大晦日（三十一日）除夜の鐘つき
　　晩十一時半から

平成三十年度
一月　元旦修正会（元旦）年始午前十時より
　　総代会
　　門信徒会役員会
　　御正忌（十五日）晩大逮夜
　　御正忌（十六日）
二月　初法座（十六日）
　　仏婦総会（二十五日）
三月　春彼岸法座（二十一日）
四月　永代経法要（二十日～二十一日）
　　邑南町　瑞光倫浩　師
　　門信徒総会　二十一日　十時
五月　降誕会法座（二十日）初参式
六月　四季講（九日）　武田晋先生
七月　安居会（七日）佐波組仏婦総会も兼ねる
八月　盆法座（二十日）
九月　秋彼岸（二十三日）
　　前住職・前坊守追弔法要
十月　芋法事（十六日）仏婦例会も兼ねる
十一月　報恩講（二十日～二十一日）
　　広島県　加藤一英　師

リビング法話「言葉になった仏さま」

住職　西原真公

子どもが小さいと病院にかかることが頻繁にあります。それも休日とか夜中に発病したり、発熱したりします。そんな時、親としては一刻も早く病院に連れて行きたいのですが、よほど高熱とか緊急性がない場合は「明日病院に行こう」ということもしばしばあります。これは病院や周囲の人への遠慮もあります。

病院で看てもらって「〇〇の症状ですね」とか「△△の病気です」と云われると案外ホッとするものです。それは「こういう病気だから治す方法(薬)がありますよ」といわれている気がするのです。病院に行くのも「こうすれば治りますよ」の言葉を聞く為に受診しているのかもしれませんね。先生の「大丈夫ですよ」という言葉を聞くから安心するのではないでしょうか。

阿弥陀さまは、南無阿弥陀仏という名前になって私たちを救うといわれます。名前というのは言葉です。言葉を口にすることが、どうして救いになるのか、若い頃の私はよくわかりませんでした。

たとえば、「おにぎり」という言葉と、おにぎりそのものは別ものです。お腹（なか）がすいたときに、口で何百回「おにぎり」といっても、お腹の中を渡るような人は、決して信用されません。あの人は言葉だけだと言われて、喜ぶ人はいないでしょう。言葉よりも中身や実行が大事だというわけです。

こう思っている人の心の底には、言葉は人間の持ち物で、人間が自由に操（あやつ）れるものだという理解があるようです。でも、これは勝手な思い込みにすぎません。人間が、自分の意志で言葉を完全にコントロールすることなんてできません。言葉は、ペンや自転車のような道具ではないのです。ペンや自転車は、使わないときはペン立てやガレージにしまっておくことができます。

ところが、言葉の使用は停止することができません。誰とも話していない時でも、私たちの頭の中では言葉が湧き出ています。これを書いている私自身も、言葉の海の中にいます。たとえ夢の中であっても、私たちは言葉を使っているでしょう。これは道具でないことの証拠です。

また、私たちは言葉に傷つき、言葉で蘇（よみがえ）ります。さらに言えば、私たちが育つためには言葉が不可欠です。「褒（ほ）めて育てよ」というではありませんか。食べ物さえあればいいというものではないのです。人間は言葉から離れられないのです。

名前というのは、そういう言葉のひとつです。私たちは、生まれたらすぐに名前をもらいます。そして、名前を呼ばれながらこの世を去ります。私たちの生は、常に名前という言葉とともにあるのです。名前のない人生、言葉のない人間は考えられないでしょう。

そう考えてみると、人間が言葉を使うという言い方は、適切でないことがわかります。そうではなく、言葉の世界に生きているのが私たちなのです。

そんな私たちのありようをご覧になったから、阿弥陀さまは名号になられたのでしょう。私たちは、迷いにも救いにも自分で気づくことはできません。けれども名前となって呼び続ければ、いつも衆生（しゅじょう）と一緒にいることができる。そしていつか慈悲の存在に気づくはずだというのが、阿弥陀さまの確信だったのです。だから南無阿弥陀仏の名号（みょうごう）は、私に仏さまの存在を知らせると同時に、「心配ない」と告げてくださっています。だから安心するのです。

▽▲▽▲▽　お知らせ　▲▽▲▽▲

たすけあい運動募金

東日本・熊本大震災に支援金を！

平成二十三年三月の東日本大震災から六年、被災地の苦悩が、忘却され風化しつつある今、被災された方がたの悲しみを聴き、その声に応えた支援が今も必要とされています。少しでも被災された方々と寄り添っていくためにも法要毎に「大震災支援金」を募っております。この支援金は復興支援活動を行う人びとや被災者を応援できる制度です。

お参りの際はよろしくご協力をお願い致します。

伝灯奉告法要　佐波組団体参拝

本願寺では昨年の10月より第25世専如門主伝灯奉告法要が始まり、佐波組でもこの度のご勝縁に遇うべく5月27日から2泊3日、78名で団体参拝旅行に行って来ました。浄土寺からも12名の参加があり、賑やかに楽しく親睦を深めてきました。

1日目は法要に参拝しその後帰敬式(おかみそり)が行われ浄土寺から5名の方が受式、その晩は亀岡の湯の花温泉に1泊しました。2日目姫路城を見学し小豆島へ渡り宿泊、3日目はハーブ園や二十四の瞳のロケ地、寒霞渓などを散策し美郷町に帰ってきました。

この度のご法要は多くの方が帰敬式を受けられ、これからも共々にお念仏喜ぶ人生を歩ませていただく尊いご縁でありました。

佐波組仏の子のつどい

8會4既(釐)、第18回佐波組ほとけの子のつどいが浄土寺で開催されました。21名の参加で、ゲーム、工作、対抗ゲームをして盛り上がりました。

山陰教区若寺婦研修会

8會8既、山陰教区若寺婦研修会が佐波組担当で浄土寺を会場として開催しました。講師は京都龍谷大学の宗教教育部の皆さんで、若寺婦が子ども役になりサマースクールの実践をしました。この研修会は教区少年連盟の研修会も兼ねており、画期的な研修会となりました。お昼はカレーライスで佐波組の坊守様が美郷町特産の山くじらを使い、特製カレーをいただきました。とても美味しく、おかわりが止まりませんでした！

バケツ太鼓を鳴らそう

8會26既(土)の午前中、元ブルーハーツのドラム、梶クンこと梶原徹也さん、美郷町在住のマツさん、和太鼓の友岡さんのセッションでライブがありました。テレビで観た人が粕渕に来ると言うことで、往年のファンも集まりバケツを太鼓ように鳴らして大いに盛り上がりました。

一日研修旅行

10月17日、六名の参加で、大田市鳥井の法専寺様の報恩講に参拝しました。法専寺の住職は浄土寺住職と同級生で教区のことなど公私共々に親しくさせてもらっています。当日は住職様や坊守様の温かい歓迎を受けながら、まごころこもったお斎をいただき、ゆっくりお聴聞できることを喜び、最良のひとときを過ごさせていただきました。御講師が東日本大震災で津波被害に遭われたお寺のご住職であり、その時の様子や復興に至る出来事を御法義いっぱいにお話しくださいました。来年もどこかの報恩講にお参りに行きましょう！

浄土寺ゴルフコンペ 開催

10月20日(金)、浄土寺で初めてゴルフコンペを開催しました。グランドゴルフの実施からスムーズにコンペが出来ると思っていましたが、発案から4年が経ちました。門信徒の皆さんはもちろん、美郷町内の方にも多数参加頂き、総勢19人でプレーしました。表彰式は浄土寺で行い、そのあと庫裡で懇親会を開き、大いに飲み、楽しいひとときを過ごしました。「次はいつするの？」と声も上がり、皆さん次回も楽しみにしていました。

初参式　五月二十一日（日）

宗祖降誕会法要（親鸞さまのお誕生お祝い法座）に当たり浄土寺本堂に於いて浄土寺聞信仏教婦人会の主催で、（赤ちゃんから二歳くらい対象）が五月二十一日（日）に行われました。赤ちゃんの手形足形の記録採取やお勤めがあり、みんなでケーキを食べてお祝いしました。今年は高簾　遥加（たかはた　はるか）ちゃん、1名のお参りでした。ありがとうございました。

来年も是非、仏縁に会う初参式をお受け頂けますよう、仏婦一同お待ちしています。

四季講

昨年まで12月開催でしたが今年は6月12日に四季講を開催しました。四季講とは石見地区の有志僧侶四人が中心となり、年4回開催しています。今年から龍谷大学真宗学教授で山地出身の武田晋先生にお越しいただき、三部経と七高僧を2年間学ぶ予定です。その第1回目が浄土寺で開催されました。20数名の方々が熱心にお聴聞されました。

第5回グラウンドゴルフ大会

今年は6月23日（金）快晴の中、門信徒の皆様と美郷町防災公園で第五回浄土寺杯グラウンドゴルフ大会を開催しました。今年もたくさん参加していただき、28名でプレーしました。毎回初心者の方も参加頂き、ベテランさんの中に混じって楽しくプレーしています。表彰式、閉会式は浄土寺本堂で行い、向拝（ごはい）で記念撮影。また来年も開催します！

第2回佐波組グラウンドゴルフ大会

昨年に引き続き、10月10日(火)に佐波組でのグラウンドゴルフ大会を開催しました。浄土寺聞信仏婦だけでなく、沢谷の相愛仏婦も参加し、吾郷地区、別府地区からもたくさん参加して頂きました。参加者は33名でしたが、この輪が美郷町全体に広がり、佐波組の活動が活発になることを期待しています。優勝は浄土寺仏婦の福田鈴子さんでした。

永代経懇志進納された方々

【平成二十九年十一月一日現在】

（平成二十九年四月から平成二十九年十一月まで）

慈教院釋正観（上田正美）施主　五十猛　上田隆三　殿
慈浄院釋恵真（清水キヨ子）施主　高畑　清水一美　殿
釋敬秀（景山秀雄）施主　大田　景山スミエ　殿
釋一照（波多野一也）施主　上川戸　波多野敏美　殿
釋至孝（奥野俊孝）施主　上粕渕　奥野章子　殿
釋満栄（土居ミツヨ）施主　大阪　土居家　殿
慈照院釋利行（和田力子）施主　志学　和田一郎　殿

添なくお受けし教化の資とさせて戴きます

永代経懇志（こんし）とは故人が今生でお念仏に遇い、往生の素懐（そかい）を遂げた証であり、この境涯での形見を上置きとして遺す意味であります。

浄土寺では還浄された故人の尊名と法名を永代まで法名軸に奉安顕彰し、永代に亘る祠堂読経のご懇念としてお受けさせて戴いています。

▽▲▽▲▽　お知らせ　▲▽▲▽▲

除夜会の案内

今年も十二月三十一日午後十一時半より除夜の鐘つきを行います。境内には**竹灯籠を灯し**、今年は特に細工を施した竹灯籠も灯します。本堂で温かい「甘酒」を振る舞いますので、是非お参り下さい。そして阿弥陀さまに年賀の挨拶をして新しい年の出発をしていきたいものです。

十二月三十一日
午後十一時三〇分より
一時まで